

月にみがきて



更級小学校だより

No. 18 H27. 3. 18

子どもたちの輝く姿あふれた1年間

今日で3学期が終わります。終業式で校長先生から思いを込めた行為についてお話いただきました。

48日間の短い3学期が今日で終わります。

今年は2つの力をつけ一つの約束を守ることをめざしてやってきました。2つの力の一つは自分で考え行動できる力、2つは自分の考えを他の人に伝える力でした。そんな力が発揮されていた例を代表して2つお話しします。

2学期、4年生は2分の1成人式をしました。その中で一人一人がお家の人の前で、自分の思いや考えを発表しました。リハーサルでは声が小さくて聞こえない人が何人もいたので担任の先生がマイクを用意しました。ところが本番ではみな誰一人マイクを使おうとしなかったそうです。お家の人に直接思いを伝えたいかたのではないかと担任の先生は言っています。一部でしたが、一生懸命発表する四年生を見て、その真剣さに先生も感動しました。お家の人への感謝の気持ち、自分の思いを伝えようとしていた姿でした。

3月6日に行われた6年生を送る会。1年生のありがとう、2年生のクイズ、3年生の五七五、4年生のよびかけ、5年生の鼓笛、どの学年の発表にも思いがこもっていました。6年生への感謝の気持ち、中学でもがんばってという応援の気持ち、そんな思いが伝わるので6年生も又、真剣に聞き、見てくれました。

5年生は6年生を送る会の前、その意味を考えたそうです。そして「感謝の気持ちを伝えたい」とか、「6年生に安心して卒業してもらえるようにしたい」と考えて準備したそうです。ですから、6年生に座ってもらう椅子を地下倉庫から運んだとき、ついていたほこりを取り、椅子を一生懸命磨く5年生の姿がありました。自分たちで考え、準備し行動し、そうした思いが6年生を送る会には込められていたのです。

「こころはだれにも見えないけれど、こころづかいは見える
思いは見えないけれど、思いやりはだれにも見える」

このことばは宮澤章二さんという作詞家の方がつくった「行為の意

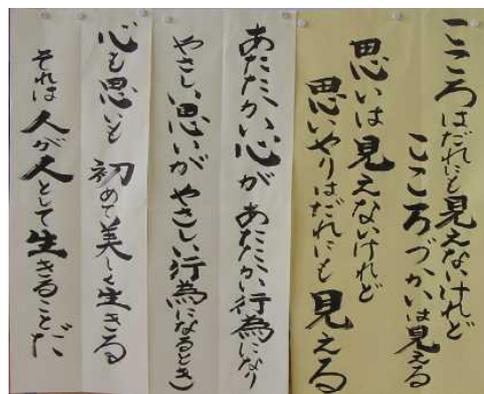
味」という詩の一部です。この詩は、こんなふうに結ばれています。

あたたかい心が、あたたかい行為になり、やさしい思いが、やさしい行為になるときく心もく思いも初めて美しく生きる。それは、人が人として生きることだ。

明日の卒業式は1年間の更級小学校の区切りで大事な式です。

在校生は卒業生への感謝の思いを、卒業生は自分をこれまで支えてくれた全ての人への感謝の思いを呼びかけや歌に込めて、みんなの心に残る式にしましょう。

春休みは1年間でもっとも小学生の交通事故が起こりやすい休みです。怪我や病気をしないよう一人ひとりが自分のことを自分で気をつけて、元気に4月を迎えられるようにしてください。



卒業という必然の別れ。どうすることもできないことだからこそ、今このときを大切にしようと、伝えたい思いを伝え合い、受け止め合っていた姿に感動した6年生を送る会でした。

大きな声であいさつする子。お辞儀をしてあいさつする子。靴についた雪や泥をマットの上で落としてから玄関に入る子。使った傘の滴を払い、傘を束ねて傘立てに入れる子。感謝して給食を残さず食べる子。無言で清掃に打ち込める子。係活動や当番活動に誠実に取り組む子。頼まれたことに気持ちよく取り組める子。奉仕活動に黙々と取り組んでいた6年生。児童会活動や登校班長を6年生から引き継ぎ、誠実にことに当たっている5年生など。思いを大切にそれを行為で表せる子どもたちの姿にたくさん出会えた一年間でした。

学力や体力だけでなく、心の豊かさをも高めてきた子どもたちです。そんな成長の姿をご家庭でもお子さんと確かめ合ってください。そして、それらの成長をお子さん自身が自覚し、自分自身を素晴らしい存在、素敵な存在として認められるようにしていただきたいと思います。お子さんが自信に満ち、やる気いっぱいの4月のスタートを切れませすようにおねがいします。

一年間、保護者の皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございました。お陰様で大過なく一年間の活動を終えることができます。また、安全パトロール隊の方、ボランティアとして学校に関わって下さった方など、地域の方々にも学校を支えていただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

